

第6回 旭川市民文化会館整備基本構想検討会 会議録（要旨）

| | |
|--------------|---|
| 会議名 | 第6回 旭川市民文化会館整備基本構想検討会 |
| 開催日 | 令和5年11月20日（月） 午後1時30分から午後3時15分まで |
| 開催場所 | 旭川市役所 総合庁舎 7階 大会議室C |
| 出席者 （敬称略） | 参加者 全12名のうち11名出席 五十嵐 真幸，上田 信津子，大口 優，大谷 薫， 佐藤 淳一，鈴川 雄太，西川 祐司，水野 雅文， 南 裕一，宮田 健一，森 傑 事務局 4人出席 社会教育部長，文化ホール担当課長， 市民文化会館主査（2人） 事務局支援 6名 北海道大学大学院建築計画学研究室 |
| 会議の公開非公開の別 | 公開 |
| 傍聴者数 | 2名 |
| 会議資料 | 別紙のとおり |

1 開会

2 議事

進行役：

- ・ 次第にあるとおり，今回の議事は以下の4つ。
 - （1）前回の振り返り
 - （2）コンセプト・キーフレーズ（案）について
 - （3）敷地の要素について
 - （4）質疑応答・意見交換
- ・ それぞれ資料に基づき，説明と質問等で区切りながら進めさせていただきたい。

（1）第5回会議の振り返り

進行役：

- ・ 前回の会議では、諸室や機能の相互関係、滞在の仕方等をイメージしていただくため、模型を組み上げながらグループディスカッションを行ったが、その結果をダイアグラムの表現したものが資料1になっている。事務局から説明いただきたい。

事務局：

資料1及び資料2に基づき、以下のとおり説明。

(資料1：グループAの結果について)

- ・ フリースペースをギャラリーや中ホール、屋外と一体的に利用し、イベントなどで活用できるスペースとしたい旨の意見が多かった。
- ・ エントランスはフリースペースに隣接して設け、視認性の高さ及び接続性を重視。
- ・ 大ホールや会議室など目的を持った機能は、2階に配置しても良いとの意見になった。
- ・ 総じて各機能や諸室の一体利用という議論が多くなされていた。

(資料1：グループBの結果について)

- ・ エントランスは移動空間であると同時に滞在可能な空間にもなるよう、中庭や読書スペースなどが点在していると良いという意見があった。
- ・ 目的がなくても立ち寄れる場所として、ギャラリーや図書コーナーが立体的に積み上がると、移動しながら楽しむことができる施設になるとの意見もあった。
- ・ オープンな会議室とクローズドな会議室を設け、また会議室周りには談話スペースを設けたいなどの意見が出た。

(資料2：キーワードマップについて)

- ・ 模型を使った空間に対するディスカッションであったことから、第4回会議におけるコンセプトに関するグループディスカッションとは違った傾向として、「ライブラリー・ギャラリー」や「余白空間」等の空間に関する意見が多くあった。

進行役：

- ・ 資料1の両グループに共通する部分として、多くの人がアクセスする地上階に、市民が集いやすく利活用しやすいフリースペース（多目的スペース）を設け、そこへギャラリーや会議室を隣接させることで一体的に利用でき、活気やにぎわいを感じられる空間にしたい、という点があった。
- ・ また、大ホールはフリースペースに対しポジティブに接続を切ることで、ホールの音響性能を担保している点も共通している。
- ・ このとおりに建設しようというものではないが、皆さんが大事にしたいところ、コンセプトとでもいうべき部分を分かりやすく形にさせていただいたと思う。
- ・ 資料2のキーワードマップも密度が上がってきた。現在はそれぞれボックスが並立している状態であるが、相互の関係や、近さ・遠さ等の要素が表現できるようになってくると、基本構想としての関心どころが分かりやすくなると思う。

(2) コンセプト・キーワード (案) について

進行役：

- ・ これまでの議論をキーワードマップに整理していく中で、皆さんの関心の高かった部分を3つ選出、それらを強調し、それぞれ個性を持たせて意図的にフレーズ化する形で作成したものが資料3である。
- ・ これら3つの中から選んでほしいというのではなく、もう少しこういった考え方や表現があると良い等の意見や感想をいただければと思う。
資料3のイメージ画像に関しては、コンセプト・キーワード案から想起される活動のイメージをつかんでもらいたいという意図のもと、画像生成AIを使用し、あえてイラスト風の表現で作成している。

事務局：

資料3に基づき、以下のとおり説明。

「愛着が持てる豊かな文化芸術にふれることができるプラザ」

- ・ 「まちづくり」を軸として考えたキーワード案。
- ・ 木をふんだんに使った旭川らしいデザインや、気軽に立ち寄れるカフェやギャラリーなど、ふらっと訪れた市民が旭川らしさを感じ、愛着を持つことができる空間をイメージしている。

「文化芸術活動がつながり市民が集う広場」

- ・ 「文化芸術」を軸に考えたキーワード案。
- ・ 著名なアーティストのイベント等の開催を通じて、そこから刺激を受けた市民が主体的に活動し、自ら発信していく様子や、幅広い文化芸術を通して市民が交流できるスペースをイメージしている。

「多様な交流ができる誇りある拠点」

- ・ 「道北の中心施設」を軸に考えたキーワード案。
- ・ 社会人や学生、子供たちが集まり多様な交流が生まれる空間として、フリースペースでのイベント開催や、ギャラリーを企業展示にも活用すること等をイメージしている。

進行役：

- ・ ここでは「(3) 敷地の要素について」と同じ評価軸を使用している。
- ・ 1つ目は「まちづくり」というコンセプトを軸に、市民目線で市民生活が豊かになっていくことを中心にイメージしたフレーズである。
- ・ 2つ目は「文化芸術」に特徴を持たせ、高いレベルでの発信・体験を軸としたフレーズである。

- ・ 3つ目は、文化芸術に限定せず、コンベンション等も含めた道北圏での大きなイベントの開催場所といえはここであるという、「拠点施設」としての位置付けを意識したフレーズである。
- ・ これらのフレーズに関して、皆さんの意見や感想等を伺いたい。

参加者：

- ・ それぞれ末尾の言葉がキーワードになるように感じた。「広場」は屋根のないオープンな場所、「拠点」は硬い印象があり、「プラザ」が一番イメージに近い。「総合プラザ」などにするともっと多様性を含んだものになるのでは。
- ・ 旭川市民に「自分達のための施設」であると感じてほしいので、「誇りある」というキーワードも良いと思う。

参加者：

- ・ 旭川はユネスコデザイン都市として認定されていることもあり、デザインという要素は大事にしてほしい。
- ・ JR 旭川駅も木をふんだんに使っており、旭川において木の使用は特別感を演出する要素ではないものの、外せない要素でもあったと感じた。
- ・ 「文化芸術」に特徴を出すことで、市内の他施設とは明確に異なることを示しつつ、芸術活動が子供たちの将来の夢や活動につながっていけば良いと感じた。

進行役：

- ・ 将来の夢につながる等、前向きな方向性を持ったキーフレーズになると良いという点に共感した。

参加者：

- ・ 「拠点」という言葉には、キーワードマップを見ると「文化を広げていく拠点」という要素も含まれていると思うので、そうした部分も読み取れるフレーズになると良い。

参加者：

- ・ 様々な文化芸術分野で多くの人材を輩出してきたことが旭川らしさの一つであり、子供たちがそうした人材から知恵をもらう場、文化を子供たちにつなげていく拠点になってほしいと思うことから、「つながり」というフレーズが良いと思う。
- ・ 子供たちが資料3の「多様な交流ができる誇りある拠点」イラストの中心にあると良い。

進行役：

- ・ 先程の意見にもあったが、やはり未来を志向したフレーズが良いという印象である。

参加者：

- ・ どれも素晴らしいと思うが、伝えたいものが明確化されていないと、漠然としたものになってしまうおそれがある。
- ・ コンセプト自体を考えるのとあわせて、うまく市民に伝わるよう、どう情報発信し、どのように市民が情報をキャッチするか工夫する必要があると思う。

進行役：

- ・ 単語を書くだけなら簡単であるが、色々な方が「あの場所で何をやっているのか」ということを早い段階でキャッチできるよう、発信力は大切になる。
- ・ メインフレーズとサブフレーズに分けるなど、考え方を市民に分かりやすく伝えられるような表現方法についても考えていきたい。

参加者：

- ・ 旭川では色々な場所で様々な活動が行われているが、情報が一元的に集約されていないので、市民文化会館にはそうした情報面での拠点性も備えてほしいと思う。

進行役：

- ・ 皆さんが「拠点」という概念に関して、強い思いを持っているということが分かってきた。ただ、少々硬い言葉なので、表現方法については考えていきたい。

参加者：

- ・ 3つとも、どこに重きを置くか、どこをフィーチャーするか苦労して考えられた良いフレーズと思うが、それは我々が本検討会に出席し、議論の経緯を把握した上で読んでいるためであると思う。
- ・ 全て大事なことだと思うが、あまり長くなると要旨がぼやけてしまう。進行役から指摘のあったとおり、メインフレーズとサブフレーズに分ける等、市民が見たときに分かりやすい形としてほしい。
- ・ 言葉の並びとして、資料3の「愛着が持てる豊かな文化芸術にふれることができるプラザ」では、「愛着が持てる」は「プラザ」の前に入った方が良いと思う。

進行役

- ・ 御指摘のとおりである。以後の調整に際して修正したい。

参加者：

- ・ 「文化芸術」という言葉が柱になると思う。
- ・ 「拠点」も「プラザ」もどちらも良いと感じ、また「集う」や「誇り」というキーワードも重要と感じた。

進行役：

- ・ 建築・都市計画分野において、「拠点」は機能の集約、「プラザ」は市民の活動が集まる場所、「広場」は誰でも使えるパブリックスペースというイメージである。
- ・ 「拠点」という言葉を使うと機能面が強調され、硬さが出るように感じる。

参加者：

- ・ 費用面の課題もあると思うが、入った時に驚きやひらめきを感じられる、ユニークな建物であることが大事であり、それが人の集まる要因になると思う。
- ・ 規模が大きくなると、他にはない施設があるということは、誇りにもなると思う。そうした文化芸術の中心であるプラザになると良い。

進行役：

- ・ 現在の市民文化会館は、建設当時の文化施設として、良く考えられた建物である。文化施設は空間性が大切なので、もう少し先の検討課題にはなるが、大事にしたいところ。
- ・ 一方、他にないユニークな造形とする場合、費用負担はどうしても重くなる。
- ・ また、直近 10～20 年間における建築面での「ユニークさ」に係る価値観の変遷として、造形的な面での独自性よりも、環境負荷の少ない建設資材の選択や設備設計など、「サステナブル」に関する要素で新規性を打ち出す形へと移行してきている。

参加者：

- ・ イメージ画像から、天井が高く、開放的な場所があると良いと感じた。
- ・ コンベンションの視点から考える、やはり 3 つ目が良い。コンベンションの開催を通して交流人口が増加すれば、経済的にもまちづくりの面でも貢献できると思う。

進行役：

- ・ 全国の市民文化ホール事業において、コンベンション的なものをキーフレーズとして前面に打ち出している事例は少ない一方、施設の機能としてコンベンション等の集会的機能を考慮していない施設はほとんどない。
- ・ コンセプトを分かりやすく市民に伝えられるフレーズを考えていきたい。
- ・ 全体を通して皆さんから前向きなコメントをいただくことができた。今後、メインフレーズ・サブフレーズのような形を含め、事務局にて再度検討していきたい。

事務局：

- ・ 様々な意見が入ると玉虫色になりがちなので、漠然としたものにならないよう、いただいた意見を踏まえつつ、特徴を持ったコンセプトとなるよう検討し、次回会議で提示したい。

参加者：

- ・ 動詞に着目して、「広がり」という言葉が入るとより拡大して考えられるのでは。

(3) 敷地の要素について

進行役：

- ・ 資料4については、「どこに建設するか」を選択するための候補ではなく、これまで会議の中で意見のあった敷地について、その特徴を整理することにより、「敷地の面で施設建設に必要となる要素」について議論するための資料である。
- ・ 資料3のコンセプト・キーフレーズ（案）と同様、「まちづくり」「文化芸術」「道北の中心施設」の3点を評価軸にそれぞれの特性を記載しているほか、敷地の基礎情報や性能について整理している。

事務局：

- ・ 進行役からも補足いただいたとおり、資料4は、令和4年度に開催した「旭川市民文化会館の在り方検討会」及び現在開催している「旭川市民文化会館整備基本構想検討会」において御意見をいただいた敷地として、「旧総合庁舎跡地」「大雪クリスタルホール多目的広場」「常磐公園内」の3か所を例示したもの。
- ・ 旭川市として施設の建設予定地としてこの3か所を選定したものではない旨、御承知願いたい。
- ・ 例示した敷地の要素について比較しながら、新施設を建設する上で必要となる敷地の要素について意見をいただきたい。

(資料4に基づき説明)

進行役：

- ・ 3か所ともそれぞれに先程のキーフレーズとリンクする特徴を持っており、どの敷地もホール施設の建設可能性がある敷地である。
- ・ 例えば、文化芸術の公演・発信等を主軸として考えた施設は、公園内の敷地に建設されていることが多い。これは特別感の演出という観点のほか、来館者が多い場合等に、公園を待機場所としてバッファ的に活用できるためである。
- ・ また、居住ゾーンや文化芸術ゾーンなど区分してまちの構造を作るパターンも多い。これは一見分かりやすく良い方法にも思えるが、特定の機能に寄りすぎたエリアは閉鎖的になり、もともと関心の高い人々が集まる一方、これまで当該分野に触れてこなかった人にとっては、引き続き無縁の地域となってしまう。
- ・ 中心市街地は、交通の便や宿泊場所の確保といった機能性の面で有利になる。

参加者：

- ・ 「神楽地域」としてこれまでの会議で何度か発言したが、「大雪クリスタルホール多目的広場」ではなく、クリスタルパークの芝生公園を削減して設置することを想定していた。

事務局：

- ・ 現に公園として利用している市民の方々がいることに加え、国の補助等を活用して整備していることから、公園面積を減らしてホールを建設するというのは行政的にハードルが高い。

進行役：

- ・ 市街地区域内の公園は災害時の避難スペース等になっている場合も多く、そうした機能も解消しながら進めることになるため、公園面積を減少させるような建設方法は、技術的に一段階ハードルが高い部分が絡んでくるという認識を共有したい。

参加者：

- ・ 「大雪クリスタルホール多目的広場」の隣に大きな駐車場があるが、そちらと敷地をコンバージョンすることは可能か。

事務局：

- ・ 隣接しているのは大雪クリスタルホールの駐車場であるが、近隣の大雪アリーナや地場産業振興センターが混雑する日には駐車場が不足し、それらの施設利用者が駐車する場合もある。また、それでも足りずに今回例示した「大雪クリスタルホール多目的広場」の敷地も駐車場として使用する状況が、年間60日間程度ある。
- ・ このため、駐車可能台数を減少させるような敷地の使い方は難しいと考える。

参加者：

- ・ ここまで議論した内容でそのまま施設を建設した場合、新たに建設される文化会館の延床面積は、進行役の感覚では、大体どのくらいになると見込まれるか。

進行役：

- ・ 18,000～20,000 m²程度になるのではないかとと思われる。いずれの敷地を想定しても縦に積み重ねる必要が生じる。
- ・ 「大雪クリスタルホール多目的広場」は用途地域の関係で容積率が低く設定されており、建設可能な延床面積は20,000 m²弱程度である。用途地域を変更する方法もあり、行うに足る価値があれば挑戦するのも良いと思うが、都市計画の見直しや国の認可が必要になるなど、ハードルは高い。

- ・ 神楽地域を想定した場合、類似施設が集まることで一見合理的で機能が向上するよう見えるが、あくまで類似機能の集積であるため、多機能化にはつながらない。
- ・ 先に説明したとおり、街の中心部から離れた地域に大規模施設を設置すると、関心を持たない人には、日常生活において、あまりなじみのないエリアになってしまう。

参加者：

- ・ 旧総合庁舎跡地は、緑地も含めた想定だろうか。含めるのであれば、消防署のサイレン音等に対しても、緑地側にホールを置いて距離を取ることができるように思う。

進行役：

- ・ 緑地を含めた面積を記載している。
- ・ ホールを上部に積層させる形でも、距離を確保することができる。

参加者：

- ・ 街の活性化としての視点からいえば、施設ができることによって周辺に新しくお店ができるなど、民間の活動にもつながっていく可能性もあると感じた。
- ・ 24時間営業の店舗等ができること、明かりや人の存在が感じられ、治安の向上等にもつながるように思う。

進行役：

- ・ 大規模施設の建設に伴う周辺地域の経済的・商業的な活性化は期待したいところ。
- ・ 全国的に、常に誰かが活動している状況を作るよう、同一地域内に集合住宅や商業施設・オフィスなど、異なる機能をミックスするという方法が取られているが、これは御指摘のとおり、治安面等も考慮した上での措置である。

参加者：

- ・ 常磐公園内に大きな建物を建設することは可能なのか。

事務局：

- ・ 現存する建物を解体した後、当該部分を活用するというイメージである。公園内の別の場所となると、先述したクリスタルパークと同じ問題が発生する。
- ・ 公会堂は開館から65年を経過しており、既に一度大規模改修も行っているが、将来的にどうするか、考えていかなければいけない問題として認識している。

進行役：

- ・ 公園内に絶対建てられないというわけではなく、行政的な制約の中で、建設検討の可能性を考慮し、資料4に記載しているものとして認識いただければと思う。

参加者：

- ・ 公会堂の今後については、早急に考えていく必要がある。
- ・ 公会堂がなくなるのであれば新しい文化会館には中ホール機能を担保する必要があると思うし、公会堂を建替えるなどして今後も使用できると考えられるのであれば、新しい文化会館は大ホールと小ホールという構成で良いかもしれない。
- ・ 仮に新しい文化会館の建設を 10 年後と想定した場合、その頃には大雪クリスタルホールも建設から 40 年を経過していることになり、全体として長期的に考えなければならぬ。

進行役：

- ・ 公会堂について、今後も現在の場所で公会堂として延命し続ける必要があるのか、それとも同等の機能を文化会館の中でカバーできるのであれば、公会堂としてはなくとも良いのか、率直な意見を聞きたい。

参加者：

- ・ 先日、とある催事で公会堂を訪れ、主催者に話を聞く機会があったが、同等機能が確保できれば、公会堂自体は解体しても良いと考えている人は多いように思う。
- ・ 個人的には愛着もあるが、文化会館に吸収していくことも考えて良いと感じる。
- ・ 全国的には、中ホールを可動式の座席として整備しているところもある。

参加者：

- ・ 同じ機能を一箇所に集約することが必ずしも正しいわけではない。現在の公会堂が場所として使い勝手が良く、またホールの稼働率が高いということであれば、予約が取りやすくなるよう、公会堂を残すという考え方もあるのではないかと。

事務局：

- ・ 参考として、ホールの稼働率は、新型コロナウイルス感染症拡大前の平成 30 年度において、ホール全体で約 60%、大ホールが約 68%、小ホールが約 56%、公会堂が約 56%となっている。
- ・ どうしても土日の公演を希望される方が多いため、希望が重複し、希望どおりに予約が取れないという状況は一定程度発生している。

進行役：

- ・ 御指摘のとおり、集約が全てを解決するわけではない。一方で、管理施設を減らさず維持し続けるということは、必然的に将来世代の負担増につながっていく。
- ・ また、大規模施設を建設するには、財源として補助金を活用することが多いが、文化芸術系の施設建設には活用可能な補助メニューがない場合が多く、集約化に関する補助金を活用することが多い。

参加者：

- ・ 旭川観光コンベンション協会は、コンベンションに対応可能な宿泊施設等の意見を踏まえ、旧総合庁舎跡地が新施設の建設場所の候補になり得るのであれば、当該場所に建設願いたいということをして市に要望する予定である。
- ・ もちろんそれで場所が決定するわけではないと思うが、業界団体の希望としては、そうした意向を持っている。

進行役：

- ・ 建築技術の面からいえば、どの敷地でも、頑張れば何とか建てられるとは思いますが、一方で、資料4に挙げられた各敷地のいずれにも課題はある。
- ・ 旧総合庁舎跡地には、地下駐車場の問題もあり、公園内に建設する場合に比べて、費用負担が大きくなるおそれがある。新施設の駐車場については、現実的に考えると、周辺の民間駐車場との連携を想定した形で整備していくことになると思う。
- ・ 大雪クリスタルホール多目的広場は、新たに文化会館が建設されると、現状の平面駐車場では不足してしまうので、立体的な駐車場整備が必要になってくると思う。
- ・ 常磐公園内は、やはり搬入経路の確保について考える必要がある。この点は全国共通でクレームに発展しやすい要素であり、演者側から見たのサービス環境に不利益が生じるおそれがある。

参加者：

- ・ 少し中心市街地から離れているが、旧北都中学校の跡地があるのではないかと。
- ・ また、資料4-2の範囲内で、一定の面積を有する市有地は他にないのだろうか。

参加者：

- ・ 旧北都中学校跡地は狭いのではないかと。

事務局：

- ・ 旧北都中学校跡地の面積は11,900㎡程度。
- ・ 他に一定の面積を有する市有地となると、いずれも学校の跡地となり、中心市街地からは距離がある。

参加者：

- ・ 新施設を建設した後、現市民文化会館を解体した跡地はどうなるのか。

事務局：

- ・ 駐車場や公園にするなど、別途考えていく必要がある。

参加者：

- ・ 地下駐車場は一旦解体することになるのか。

進行役：

- ・ 一度掘削した場所を有効活用することは難しい。上に何かしらの構造物を建設することを想定すると、地盤改良していくことになると思う。
- ・ 他に技術的に気になる点としては、大雪クリスタルホール多目的広場と常磐公園内が洪水ハザードマップにおいて、浸水リスクが高いとされているという点がある。近年は自然災害が非常に多いこともあり、こうした要素が確認されている場所への建設には、国も補助金等を認可しないケースが多く、現代の建設において考慮しなければならない課題の一つである。

(4) 質疑応答・意見交換

参加者：

- ・ 演劇関係者から話を聞くと、施設の大きさや生声の通りやすさなどから、公会堂の使い勝手が良いとのこと。利用状況を見ても、公会堂は演劇で使用されていることが多いように思うので、公会堂や中ホール機能の今後について考える際には、演劇での使用について考える必要があると思う。

参加者：

- ・ 市民から聞こえる声として、文化芸術に関して困ったことがあったときの相談先がないというものがある。一方で、かつて芸術分野に携わり、引退された方でも、自分の経験や技術を若い人たちに伝えたいが、それを伝える場所がないと感じている人も多い。
そこで、文化会館に行けば何かアイデアを提供してもらえたり、技術を持った方を紹介してもらえるような場になってほしい。
- ・ 本検討会の主題は建物に関するものであり、そこから離れてしまうことは承知しているが、文化芸術に関する人材のネットワークや情報を集約し市民に提供するなど、建物の機能の中身、ソフト面の仕組みを構築することが大切だと感じており、そうした面も踏まえたコンセプトになると良いと思う。

進行役：

- ・ 御指摘のとおり、全国の評判の良いホールのほとんどはソフト面が充実している。
- ・ そうした施設では建設と並行して、どう使いこなすかを考える市民活動組織や NPO 組織などを組織化しており、またそうした組織がうまく機能するような運営計画も建物の完成前に作られている。

- ・ 一般的には、基本構想の策定後、より具体的なハード面の要素について基本計画としてまとめた後、設計・工事という順に発注していく。多くの場合、基本計画の策定後、あるいは基本計画と並行して、ソフト面の内容を検討する「管理運営計画」を考えていくことになる。
- ・ 旭川市には、今後、ハード面とソフト面の両方について充実した議論を進めていただきたいと思う。

参加者：

- ・ 参加者の中には、文化会館の審議会やクリスタルホールの協議会の委員を務めている方もいるが、ハードとソフトの両面について、問い直す時期なのかと思うので、ハード面とソフト面の両方についての充実した議論をという点には、大変共感した。

3 閉会